

短歌・俳句で綴る

御代田の四季

「短歌の会」と「御代田風の道俳句会」から寄せられた代表作品です。

短歌

差し出せば凭れかかりて露草は藍を零せりわが掌に

前田 悦子

歌成らぬ心わびしも思ふこと病夫のこのみ今日もくれゆく

桜井みさを

起きぬけに覗く楽しさ朝顔の花を数ふる二十・三十一

大井 藤子

俳句

当期雑詠

媒は八ヶ岳の山風稲の花

松浦 靖子

一刷毛の雲を払ひて夏果つる

松浦 ひかり

京町家奥の座くらく冷豆腐

橋本 潔

玉蟬は死者の唇割つて翔ぶ

足立 淳

乳牛に水掛けてやる大暑かな

土屋 春雄

小田井宿祭・浦安の舞

水引や紅ひき結ぶおちよぼ口

内堀 隆久

Man Watching #124

素敵な女性になる♡

- ◎1 趣味は？
ライブやコンサートに行くこと
- ◎2 おすすめスポットは？
浅間縄文ミュージアム(歴史を身近に感じられる場所です)
- ◎3 理想の人は？
両親
- ◎4 夢・目標は？
いろんな国へ旅行に行く!!
- ◎5 まちづくりに一言
御代田町はとても住みやすい町だと思います。



サークル さあ来る。 37

ボランティアグループ編

荒町のぎくの会

この地域に生きる私たちが地域のためにできることをしていこうと、さまざまな活動を会員11名で取り組んでいます。

ふれあい広場には、毎年手作りおやきのお店を出店し、売り上げから寄附できることを励みに頑張っています。「来年もお願いしますね」といった言葉を毎年いただけることが何よりの喜びです。また社協で行っている年3回の配食サービスにも協力し、80食ほどを手作りして、お宅へ届けています。

小諸厚生病院へは、不用になったシーツやTシャツなど使いやすい大きさに切って持参し、お尻拭きとして大変喜んでいただいています。

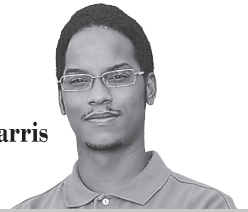
荒町地区のお年寄りの家庭や、ひとり暮らしの方のお宅など、気になることがあったら声を掛けるようにしています。また、朝は児童の見守り隊として街頭に立ち、子どもたちの安全な登下校に気を配っています。

これからもこの地域が、お互いが気持ちよいあいさつができるような町づくりが進んでいこう、みんなで仲良く、楽しく「のぎくの会」の活動を続けていけたらと思っています。



Let's try English!

Message FROM
Paul Wellington Harris
(中学校AET)
Vol. 143



I thought it would be interesting to interview some foreigners in Miyota who are ethnically Japanese. The first interview is Aimee; she is my good friend and compatriot. I cut the interview very short for Yamayuri. You can listen to the audio and read the full transcript at <http://blacklit.yamayuri.net>.

Paul: Hello Aimee

Aimee: Hello good morning.

Paul: Thank you for coming out and having this interview.

Aimee: You're welcome.

Paul: Aimee, You were born in the U.S. right?

Aimee: Right.

Paul: Which state did you live in?

Aimee: I was born in Missouri. When I was three, we moved to Des Plaines, Illinois which is near Chicago. We had the first MacDonald's there.

Paul: Oh wow! I love Macdonald's!

Aimee: Yeah, Me, too (laugh)

Paul: When did your parents come back to Japan?

Aimee: Well, we moved back here when I was fourteen.

Paul: So did you go to international schools?

Aimee: No, I went to Japanese school here. My parents tried to teach me Japanese which didn't really work. (laugh) I went to Saturday Japanese schools from when I was 10. And I never studied because I was kind of rebellious and I didn't really think that I needed to learn Japanese.

Paul: When you met Japanese people they started speaking to you in Japanese ---.

Aimee: Yeah, because I look Japanese. I went to Fuzoku junior high school in Nagano-shi. I had to take a train. So you have to buy a teiki. I always had problems because I couldn't fill out the form. They thought that I was Chinese or Korean. But I had some good friends that helped me out. It was still hard because I still didn't speak the language that well.

Paul: Is this your son, Aki?

Aimee: Yes, this is my son, Aki?

Paul: How old is he?

Aimee: He's three years old, almost three and a half.

Paul: Are you going to raise Aki to be bilingual?

Aimee: I'm not going to force him with his English because I don't want him to dislike English, because that's how I grew up. I didn't like speaking Japanese when they tried to teach me. If he can just try to communicate that's good enough. And then, if he really likes it, he'll probably study on his own.

Paul: So how do you feel about Miyota?

Aimee: I really like it here. The people are really friendly and they're open-minded. I like that the mayor comes out and does the mochitsuki. I just think it's really good that he's really open and involved with the community.

Paul: Well Aimee, I'm going to call that a wrap and close the interview now.

Aimee: Okay. It was good to do this.

Paul: Yeah, it was fun. Thank you Aki!

Aki: Thank you.



民族的には日本人だけれど、御代田町に住んでいる外国人にインタビューしてみたら皆さんきっと楽しんでいただけるかと思えます。最初に紹介したい人はエイミーといって僕の親友であり同郷です。僕がやまゆりに掲載するためにインタビューをすごく短くしています。このサイトを見ていただくと、インタビューとオーディオの全てを載せています。<http://blacklit.yamayuri.net>.

Paul: エイミー。こんにちは。

Aimee: おはよう。

Paul: インタビューに応じてくれて本当にありがとう。

Aimee: どういたしまして。

Paul: エイミーはアメリカで生まれたんだよね？

Aimee: そうよ。

Paul: どの州に住んでいたの？

Aimee: ミズーリ州で生まれたの。私が3歳のときにシカゴの近くのイリノイ州というところのデスプレインズというところに引っ越したの。そこで初めてマクドナルドに行ったのよ。

Paul: わあ。僕、マクドナルド大好き。

Aimee: はは、私もよ(笑)

Paul: いつ両親は日本に帰ってきたの？

Aimee: 私が14歳の時によ。

Paul: じゃあ、インターナショナルスクールに行ったの？

Aimee: ううん。日本の学校に通ったわ。両親は日本語を一生懸命教えようとしたけれど、全然上手くいかなくて(笑) 10歳のころから毎週土曜日に「サタデースクール」というのがあってそこで日本語を勉強していたのよ。両親には従う気がなかったし、日本語が必要とも思わなかったから全然勉強しなかった。

Paul: 日本に帰ってきて君をみると、みんな君を日本人と違って普通に日本語で話しかけるよね？

Aimee: だって私は日本人に見えるし。それから長野市の附属中学校に行って電車に乗らなきゃいけなかった。定期を買うときにはいつも問題が起きて。だって用紙に記入しなきゃいけないでしょ？彼らは私が中国人か韓国人だと思ったみたい。でも、助けてくれる友だちがいたの。大変だった、言葉もよくしゃべれなかったし。

Paul: この子は息子のアキ君だよ。

Aimee: そう、息子のアキよ。

Paul: いくつかな？

Aimee: 3歳、もうじき3歳半よ。

Paul: アキ君をバイリンガルにしようと思ってる？

Aimee: 強制する気はないわ、だって英語を嫌いになってもらいたくないし、私がそうだったから。両親が私に日本語を教えようとしていたとき、私本当に日本語を話すのが嫌だった。コミュニケーションをとろうと思うだけで十分だわ。そして、本当に好きだと思ったら、自分で勉強すればいい。

Paul: 御代田町にいてどう思う？

Aimee: ここは本当に好きよ。みんなあ親しみやすく、オープンなの。町長が餅つきをするのが好き。本当に彼はオープンで、地域と密接にかかわっているんだなって思う。そういうところが御代田町にいい効果をもたらしていると思う。

Paul: では、エイミー。そろそろインタビューを終わりにしようと思う。

Aimee: 分かった。インタビュー、良かったね。

Paul: うん、楽しかった。ありがとう、エイミー。

Aimee: ありがとう。